

高気密高断熱住宅で気をつけたい事！

昨年10月改正省エネ基準が施行されました。2020年までにすべての新築住宅は新基準への適合が義務付けられました。従来は外皮(壁材やサッシ等)の断熱性能だけで評価していましたが、新しい計算方法は「外皮の断熱性能」に加えて「一次エネルギー消費量」の二つのものさしで評価するようになります。一時エネルギー消費量とは、建物で使われる、冷暖房、換気、照明、給湯などの設備機器の性能から計算し、太陽光パネルや、再生可能エネルギー発電機の有無や外皮の断熱性能等から計算されます。いろいろな計算ソフトが開発販売されていますが、かなり専門的に勉強しないと難しくなります。専門スタッフのいる設計事務所でないか確認申請が出来なくなりそうです。また、意匠設計において、夏の陽射しを遮り、冬の陽射しを取り入れる工夫も必要です。大手のハウスメーカーはZNH(ゼロエネハウス)を謳い、PRしています。地場で活躍される工務店様で施工する場合でも同じですが、確認しておいた方が良い事を拾い上げて見ました。

- ◆ 設計で指定された断熱材や建材(サッシ他)であってもその施工法が間違っていたら十分な機能を発揮できません。建材メーカーの標準施工法を確認しましょう。
- ◆ 間取りや意匠を検討する際、陽射しを調整できる庇(設置した向きや高さ、出寸法)が必要です。庭木(落葉樹)による夏の陽射しの遮蔽と冬の陽射しの取り入れも効果があります。夏の遮蔽が不十分だと陽射しによる熱がこもって、高気密高断熱であるが故の温室効果で冷房が効かなくなる事があります。(高気密高断熱は夏場オーバーヒートするからダメだという意見もありますが、陽射しをいかに管理するかという事です。断熱改修で内窓を入れて断熱する場合も同じです)
- ◆ 高気密高断熱の家では壁体内は完全に密閉されます。新築時は計算どおりの強度が確保されていても蟻害や腐れが生じると強度は低下します。新築時のシロアリ処理は高さ1M位ですが、これは5年ほどしか薬効は有りません。5年後のシロアリ点検では壁体内は何も分からない、何も対処出来ないのが高気密高断熱です。であれば、見えない壁体内に使う材料は半永久的に使える注入材が良いのではないのでしょうか。そのような点も勉強している工務店・ハウスメーカーが安心です。

【情報】

熊本県災害仮設住宅視察

8月4,5日、かごしま地材地建グループで、熊本県優良住宅協会が手がけた木造仮設住宅見学と、業者と行政の協力のやり方について研修が行われます。

【定休日】

8月は6,7,13,14,15,16,21,27,28日となります

9月は3,4,10,11,17,18,24,25日となります

宜しく申し上げます。



腐らない木による家づくり